



第7回 長崎大学病院 ICLSコース報告書



長崎大学病院は、救急医療教育の一環として、全研修医の日本救急医学会認定『ICLSアシスタントインストラクター』資格取得を目指しております！

平成27年6月6日(土)開催

共催：長崎シミュレーション教育研究会
長崎大学病院 医療教育開発センター
救急医療教育室

協力：日本光電九州株式会社

コースの目的

本コースは、初期研修医の救命医療における知識と技術の向上を目的として開催した。

ICLSとは

日本救急医学会が主催、または「コース認定」をして行う、医療従事者のための蘇生トレーニングコースです。心臓血管系の緊急病態のうち、特に「突然の心停止に対する最初の10分間の対応と適切なチーム蘇生」を習得することを目標とした、実技実習を中心としたコースです。受講者は少人数のグループに分かれて実際に即したシミュレーション実習を繰り返し、約1日をかけて蘇生のために必要な技術や蘇生現場でのチーム医療を身につけます。身につける行動の目標は以下の通りです。

- 蘇生を始める必要性を判断でき、行動に移すことができる
- BLS(一次救命処置)に習熟する
- AED(自動体外式除細動器)を安全に操作できる
- 心停止時の4つの心電図波形を診断できる
- 除細動の適応を判断できる
- 電気ショックを安全かつ確実にこなうことができる
- 状況と自分の技能に応じた気道管理法を選択し実施できる
- 気道が確実に確保できているかどうかを判断できる
- 状況に応じて適切な薬剤を適切な方法で投与できる
- 治療可能な心停止の原因を知り、原因検索を行動にできる

実施結果

受講生17名が当コースを修了し、ICLSアシスタントインストラクターの資格を得た。

また、スタッフ(コースディレクター2名、インストラクター4名、アシスタントインストラクター7名)計13名で指導を行い、3ブースを問題なく運営した。

※スタッフ詳細はP.4



<実施内容>

開催日時	平成7年6月6日(土)9:20~17:05
受講者数	17名
対 象	初期研修医
場 所	長崎大学病院 シミュレーションセンター、リハビリ室

<スケジュール>

		グループ(1)	グループ(2)	グループ(3)
09:00~09:20	0:20	受 付		
09:20~09:30	0:10	オリエンテーション		
09:30~10:20	0:50	BLS+AED	モニター	気道管理
10:20~10:30	0:10	休憩・移動		
10:30~11:20	0:50	気道管理	BLS+AED	モニター
11:20~11:30	0:10	休憩・移動		
11:30~12:20	0:50	モニター	気道管理	BLS+AED
12:20~13:10	0:50	昼 食		
13:10~13:15	0:05	BLS・ALSデモンストレーション		
13:15~14:25	1:10	チーム蘇生 VF/VT	チーム蘇生 VF/VT	チーム蘇生 VF/VT
14:25~14:35	0:10	休憩・移動		
14:35~15:20	0:45	non VF/VT	non VF/VT	non VF/VT
15:20~15:35	0:15	休 憩		
15:35~16:35	1:00	メガコード	メガコード	メガコード
16:35~16:45	0:10	移動		
16:45~17:00	0:15	終了式・修了証授与式		

講習会の様子

～午前中～

9:20～9:30 オリエンテーション

コースディレクターの長谷敦子先生が開会の挨拶をされ、インストラクター、アシスタントインストラクターも自己紹介を含めてそれぞれ一言述べました。その後、長谷先生から、講習会の流れと注意事項を参加者に伝え、実習ブースへ移動。



受講者17名とスタッフ13名全員が一丸となってICLSコースに取り組みます。

9:30～12:20

3グループに分かれ、BLS、気道管理、モニター・電気ショックのスキルセッションを行いました。

<BLS>



さっそくセッション開始です。BLSは全員受講済みなので、基本事項をおさらいし、実習に移りました。

<モニター・電気ショック>



まず初めに、インストラクターがポスターを使ってALSアルゴリズムを説明しました。

続いて、除細動器の使い方、電気ショックのやり方を説明。その後、全員が一連のシナリオの流れで除細動器を操作したり電気ショックをかけたりし、使い方を学びました。



<気道確保>



気道管理の要点は、気道確保、換気、酸素投与の3つ。
換気はバッグバルブマスクを用いて行います。



喉頭鏡ブレード・ハンドル、気管チューブ、スタイレット、バイトブロックなど、気管挿管で使用する器具を、各インストラクターから、1つ1つ説明していただきました。



13:15～16:35

シナリオセッション。

3ブースに分かれてそれぞれチーム蘇生をます。



ショックします！

シナリオを重ねるにつれ、チーム内の息も合ってきて、それぞれの役割もすぐに決まるようになりました。



シナリオ修了後は反省会です。フィードバックももらい次に挑みます。



記録も大事な役割です。

16:45～17:00 修了式

コースディレクターの長谷敦子先生から、修了証と受講カードが、受講生1人1人に手渡されました。



これからこれから自信をもって対応してください。

朝早くから始まった講習も、いよいよ終了です。コースディレクターの山野修平先生、各スタッフから、講習会の感想と挨拶がありました。



お疲れさまでした！

◆アンケート◆ 受講者の声

- ・胸骨圧迫の交代など、さり気なく助けを求められるようになった。
- ・次にハリーコールがあった時には、少しは自信を持って動けると思います。
- ・CPAの対応時、上級医に言われたまま行動していたが、自分で考えて行動しようと思った。
- ・緊急の現場で必要な事と普段の診療で必要な事のギャップを少し理解できました。
- ・しっかり声を出して、チームの連携を意識できるようになった。落ち着いて、対応してよいと分かった。
- ・ハリーコールがあった際、今何を目的に何を行っているのか分かる事で、役割を明確に把握し、行動できるようになったと思います。
- ・これまでは、その場においても、誰がどんな役割をしているのか意識したことがなかった。自分がリーダーにならなくても、自分のすべきことを見つけて行きたいと思います。
- ・より実践的だったので、実際そういう状況になった時に少しは役立てると思えるようになりました。
- ・どの科に進んでも、医者として偶然の心停止には対応能力が出来なければならないと改めて実感しました。
- ・いかに、行動に移すかが難しいかという事理解することができました。
- ・今まではハートコール時もなかなか自分でやれることを見つけきれなかったが、これからはより積極的に役割を見つけられると思う。
- ・一通りの確認ができたので、実際の現場でも対応できるようになったと思います。
- ・意外と現場では思った通りに動けなかった。現場で落ち着いて対処するためには、訓練が重要だと感じた。
- ・BLS、ALS、気道確保の方法について以前より復習できた。

◆アンケート◆ スタッフの声

1) 受講者の態度・意欲はどうだったか？

- ・全体的に明るく元気で良かったです。
- ・初めの頃は硬くなっているのが、導入でリラックスできる工夫が必要だと思います。
- ・積極的に参加して、チームの雰囲気も良かったと思います。
- ・元気が良く、知識もあり、良かったと思います。

2) 予備知識(予習含む)はどうだったか？

- ・BLSの知識・スキルは十分あったと感じました。
- ・近いところで、勉強されていたのか、かなりしっかりしていた印象です。
- ・まったく分からないという事がなかったので、良く出来ていたと思います。
- ・波形の判断のところで差が少しみられた。
- ・やや少ないと思いました。

3) ディレクター、インストラクター、アシスタント、チューターの指導はどうだったか？

- ・皆様、元気で熱心だと思います。
- ・時間との関係で、うまく引き出せず、答えを早目に言ってしまうので、もうちょっと粘りたいと思います。
- ・積極的に楽しい雰囲気作りをされていてよかった。
- ・要点を絞って、ポジティブにフィードバックができていた。
- ・適切な指導を行い、受講生の主体性を引き出していたと思います。
- ・協力して指導に取り組めた。
- ・十分な知識と的確なインストラクションをされていたので、勉強になりました。
- ・勉強、刺激になりました。

4) 今後について、ひとこと

- ・次回もアシスタントインストラクターとして参加したいと思います。
- ・また参加します。
- ・看護師、初期研修医以外が参加できるようにしたい。

●改善点●

- ・少し器械トラブルがあった。対処するのが難しかった。
- ・人形とPCの接続がうまく行かないことがあった。
- ・各ブースのミーティング時間(準備を含め)が取れると良い。

準備する資機材(3ブース)

資機材名	必要数	備考
ハートシム、操作用PC	3	1台は予備
レサシアン	2	各ブースに2
バックバルブマスク	3	
AED	2	複数機種
気道管理トレーナー	2	
モニター付き除細動器	3	単相性 1 二相性 2
気道管理ボックス	3	各ブースに1箱ずつ
注射器10ml		
バイトブロック		
吸引チューブ		
エアウエイ		
経鼻エアウエイ		
聴診器		
ポケットマスク		
喉頭鏡(4.0)		
喉頭鏡柄		
チューブ固定具		
酸素マスク		
酸素カニュラ		
挿管チューブ		
スタイレット		
CO2チェッカー		
テープ		
点滴	3	各ブースに1つずつ
点滴スタンド	3	各ブースに1つずつ
ワゴン	3	
聴診器	3	持ってきてもらう
アルコール綿	多目	
ホワイトボード	3	
ホワイトボードマーカー4色	12	
ストップウォッチ	3	
メトロノーム	1	
延長コード	4	

**長崎大学病院
医療教育開発センター
救急医療教育室**

〒852-8501

長崎市坂本1丁目7番1号

電話 (095) 819-7881

FAX (095) 819-7882